

☆南相馬市小高区から浪江町へと入っていく。浪江町は町役場ごと二本松市に移転している。1972年原発誘致決議をあげていた浪江町議会は、「原発を認めない」「県内10基は廃炉に」の決議を今回全会一致で決議した。

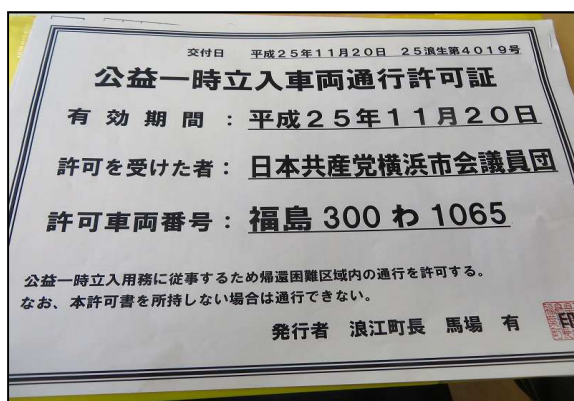
写真 15



☆ ゲートで「公益一時立入車両通行許可証」(写真16) を見せて浪江町へ入る。浪江町に入るには事前登録で国の許可が必要。

警備員の方が3人(写真17)。ゲートを過ぎた車中で《0.234 μ Sv》。

写真 16



ゲートを過ぎると町並みはそのままであるが、しーんと静まり返っている。浪江東中学校の表示が見える(写真18)。

☆津波の被害も受けた海岸近くの地域へ向かう。福島第一原発から6.5km。その時午後3時を知らせる防災放送。先ほどの許可証で入れる時間は、10時から16時。街中を走る車の中で《0.974 μ Sv》。

写真 17



写真 18



☆津波の被害を受けた請戸（うけど）港へ。《0.482 μ Sv》

このあたりの田んぼは1枚

1万 m^2 。津波は田んぼで止まった。請戸地区では430戸が津波に流されてしまい何も残っていない。182名が犠牲になり、33名が行方不明のまま。そこに人々の営み等なかったかのようにセイタカアワダチソウがいっぱいに茂っている（写真19）。



写真 19

建物は津波に破壊され、船が建物に突き刺さっている（写真20）。港は地盤沈下で海水が入っている。

港の船は100隻あったが、助かったのは16隻。ある漁師さんが、「津波が来る」と沖へ出ていき、高波を乗り越えてホッとして後ろを振り返ると、一隻の船の姿がなかったと話されたそうだ。避難した1万人が留まっていた場所は線量が高い地域で被曝した。誰もその事を知らせなかった。



写真 20

海岸線から約300mもない地点にある在校児童112名の請戸小学校では、低学年は先生方が車に乗せて、また高学年は先生方と徒歩で山に逃げて、全員が助かった。学校から避難した山までは1km以上ある。現在校庭は瓦礫の仮置き場に。地震が来たらすぐに逃げる「津波てんでんこ」が生活に生きていて、助かった。

写真 21

☆福島第一原発まで4.5kmの地点に行く。ここから双葉町。全町「帰還困難区域」の指定。入れない。空が青い（写真21）。

☆止まって線路がサビだらけになって草生い茂る常磐線を越える（写真22）。ここで、「立ち入りの時間は午後4時までです。スクリーニングを受けてお帰り下さい」の防災放送が入る。町の中を通る。

